

ヴォツェック

2014.4/5 ～ 13

レパートリー

Repertory

Wozzeck

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初 演：1925年12月14日／ベルリン／国立歌劇場

作曲・台本：アルバン・ベルク Alban Berg（1885-1935）

プロダクションについて

アルバン・ベルクが完成させた唯一のオペラ。2009年にバイエルン州立歌劇場との共同制作によって上演したプロダクションです。シーズンオープニング公演『リゴレット』のアンドレアス・クリーゲンブルクによる演出は、社会に蔓延する貧しさと暴力が世代から世代へと連鎖する様を鋭く描き出しています。指揮はギュンター・ノイホルトです。タイトルロールには国際的に活躍するゲオルク・ニグル。マリーは新国立劇場オペラ公演ではお馴染みのエレナ・ツィトコーワです。



2009年公演より

あらすじ

【第1幕】理髪師から兵士になった実直なヴォツェックは、内縁の妻マリーとの間に一人息子がいるが、貧しい生活を強いられていた。彼は上官の大尉の髭を剃ったり、誇大妄想気味の医者の人体実験のアルバイトで小銭稼ぎをしている。そのためヴォツェックの精神状態は不安定で、不気味な幻覚を見ては妄想に苛まれていた。妻のマリーはヴォツェックとの暮らしに疲れ、猛々しい肉体の持ち主である鼓手長に惹かれ、やがて不倫関係に陥る。

【第2幕】ヴォツェックはある日、耳飾りを手に女性らしく華やいでいるマリーを見て不審を抱く。それは鼓手長からの贈り物だった。やがてヴォツェックの猜疑心は高まり、妻を詰問するがしらを切られ、その場は収まる。やがて居酒屋で鼓手長がマリーと嬉しそうに踊っている現場を押さえたヴォツェック。しかし力では敵わず、袋だたきにされ、痛めつけられる。

【第3幕】信心深いマリーは自分の罪を悔いて神に祈る。だが赤い月が昇る沼のほとりで、錯乱気味のヴォツェックに刺し殺されてしまう。凶器のナイフを捨てて逃げたヴォツェックは、苦しみを紛らわそうと居酒屋で享楽に耽るが、シャツの血痕を見つけられ外に飛び出す。再び沼のほとり。ヴォツェックは証拠のナイフを沼の奥深くに投げ入れようとして溺れ死ぬ。翌朝、マリーの死骸が見つかる。遊んでいた子供達が、マリーの息子に「君のお母さん、死んだよ」と告げて沼へ向かうが、意味が呑み込めない息子は一人遊びに興じている。

Repertoire

レパートリー

Repertoire

アルバン・ベルク

ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮：……………ギュンター・ノイホルト
Conductor……………Günter Neuhold

演出……………アンドレアス・クリーゲンブルク
Production……………Andreas Kriegenburg

美術……………ハラルド・トアー
Scenery Design……………Harald Thor

衣裳……………アンドレア・シャラート
Costume Design……………Andrea Schraad

照明……………ステファン・ボリガー
Lighting Design……………Stefan Bolliger

ヴォツェック……………ゲオルク・ニグル
Wozzeck……………Georg Nigl

鼓手長……………ローマン・サドニック
Tambourmajor……………Roman Sadnik

アンドレス……………望月哲也
Andres……………Mochizuki Tetsuya

大尉……………ヴォルフガング・シュミット
Hauptmann……………Wolfgang Schmidt

医者……………妻屋秀和
Doktor……………Tsumaya Hidekazu

第一の徒弟職人……………大澤 建
1. Handwerksbursch……………Osawa Ken

第二の徒弟職人……………萩原 潤
2. Handwerksbursch……………Hagiwara Jun

白痴……………青地英幸
Der Narr……………Aochi Hideyuki

マリー……………エレナ・ツィトコーワ
Marie……………Elena Zhidkova

マルグレート……………山下牧子
Margret……………Yamashita Makiko

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus……………New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra……………Tokyo Philharmonic Orchestra

〔共同制作〕バイエルン州立歌劇場

2014年4月5日(土) 2：00 11日(金) 2：00
8日(火) 7：00 13日(日) 2：00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】
S：23,100円・A：18,900円・B：12,600円・C：7,350円・D：4,200円
【前売開始】2013年11月23日(土・祝)

主要キャスト・スタッフプロフィール

ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

指揮：ギュンター・ノイホルト

Conductor : Günter Neuhold

オーストリア・グラーツ生まれ。同市で音楽教育を受けた後、ローマでF.フェラーラ、ウィーンでH.スワロフスキーの各氏に師事。1981年から86年までパルマ歌劇場の音楽監督を務める。その後、ロイヤル・フランダース・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼音楽監督、バーデン州立歌劇場の音楽総監督、ブレーメン歌劇場の音楽総監督兼芸術監督などを歴任。現在はスペイン・ビルバオ交響楽団の首席指揮者を務めている。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、ローマ歌劇場、ボローニャ市立歌劇場、フィラデルフィア・オペラなど各地の歌劇場に出演。ウィーン・フィル、シュターツカペレ・ドレスデンなど世界中の一流オーケストラとも共演しているベテラン指揮者。日本には2011年京都市交響楽団定期演奏会のほか、これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団との共演で来日している。新国立劇場初登場。



演出：アンドレアス・クリーゲンブルク

Production : Andreas Kriegenburg

ドイツのマグデブルク生まれ。ドイツ演劇界の鬼才にして、オペラ界でも斬新な試みによって数々の秀作を生みだしている気鋭の演出家。鋳型製作の技術を学んだ後、建具職人兼技術者としてマグデブルク劇場に勤務。ツィッタウとフランクフルト・アン・デア・オーダーで演出助手と演出家を務め、1991年にベルリンのローザ・ルクセンブルク広場フォルクスビューネの劇場所属の演出家になる。96年からハノーファー州立劇場、99年からはウィーン・ブルク劇場において業績を重ねる。2001年からハンブルク・タリア劇場において演出部責任者を務めた。他にも、ミュンヘン・カンマーシュピーレにおいて数多くの演劇作品を演出している。09年9月、ベルリン・ドイツ座の首席演出家に就任。オペラ演出としては、マグデブルク劇場において、06年に『オルフェオとエウリディーチェ』、07年に『イドメネオ』、10年にベルリン・ドイツ・オペラで『オテロ』、12年にフランクフルト・オペラで『トスカ』を演出。12年夏のミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ニーベルングの指環』新演出は世界が注目する中で大成功を収めた。新国立劇場では2013/2014シーズンオープニング公演『リゴレット』の新演出を手掛ける。

ヴォツェック：ゲオルク・ニグル

Wozzeck : Georg Nigl

オーストリア・ウィーン生まれ。ウィーン少年合唱団屈指のボーイソプラノ・ソリストとして、幼少時より音楽に親しむ。その後、宮廷歌手ヒルデ・ツァデクに声楽を師事。これまでにバリトン歌手としてバイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、モネ劇場、シャンゼリゼ劇場、ポリショイ劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭などに出演。『ヴォツェック』タイトルロール、『ルル』猛獣遣い／カ業師、『エウゲニ・オネーギン』ザレツキーのほか、バスカル・デュサパンの『パッション』ルイ、リーム『ディオニソス』タイトルロールなど、特に定評のある現代作品を中心に幅広いレパートリーを持つ。リーム、チェルハ、シャリーノ、エトヴェシュなどの世界初演作品にも数多く出演している。最近では、2012年6月に本プロダクションであるバイエルン州立歌劇場『ヴォツェック』にタイトルロールで出演し、喝采を浴びている。11年9月ルール・トリエンナーレでの細川俊夫『班女』（ビエト新演出）に続き、13年1月にもベルリン州立歌劇場で『班女』吉雄を演じる。新国立劇場初登場。



鼓手長：ローマン・サドニク

Tambourmajor : Roman Sadnik

オーストリア・ウィーン生まれ。演劇の勉強をした後に、声楽を学ぶ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、アムステルダム歌劇場、リヨン歌劇場、ライプツィヒ・オペラ、アン・デア・ウィーン劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ウィーン芸術週間など、主要な歌劇場や音楽祭に出演。『トスカ』カヴァラドッシ、『蝶々夫人』ピンカートン、『オテロ』タイトルロール、『アイーダ』ラダメス、『道化師』カニオ、『タンホイザー』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムント、『ナクソス島のアリアドネ』パッカス、『サロメ』ヘロデ、『魔弾の射手』マックス、『フィデリオ』フロレスタンなどに加え、『イエヌーファ』ラカ、『スペードの女王』ゲルマンなどスラヴ系の作品に至る幅広いレパートリーを持つ。最近では、ブレーメン歌劇場『タンホイザー』タイトルロール、ミラノ・スカラ座『影のない女』バラクの兄弟のほか、2012年6月バイエルン州立歌劇場および7月のオペラフェスティバルで本プロダクション『ヴォツェック』鼓手長に出演している。13年は、ボルドー国立歌劇場『サロメ』ヘロデ（3月）、マグデブルク歌劇場『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどに出演が決まっている。新国立劇場初登場。



アンドレス：望月哲也

Andres : Mochizuki Tetsuya

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽科修士課程オペラ科修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。大学院在学中にNTTドコモより奨学金を授与。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽。第35回日伊声楽コンクール第3位入賞。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位入賞。第70回日本音楽コンクール第2位入賞（オペラ・アリア部門）。『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』『椿姫』『愛の妙薬』『セビリアの理髪師』などに出演。近年は『ボッペアの戴冠』『デイドとエネアス』『エウリディーチェ』や『ナクソス島のアリアドネ』『サロメ』『エジプトのヘレナ』などに出演。2008年ポーランド・レグニツァ市立劇場『魔笛』タミーノでヨーロッパデビュー。東京二期会『皇帝ティートの慈悲』タイトルロールにおける歌唱・演技は記憶に残る。その後も『カプリッチョ』若き音楽家フラマン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオとレパートリーを広げる。新国立劇場では『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手などに出演を重ね、12年10月『ピーター・グライムズ』ホレース・アダムスでは持ち前の美声を駆使して公演の成功に貢献した。13年1月『タンホイザー』ヴァルター、4月『魔笛』タミーノ、6月『夜叉ヶ池』晃と出演が続く。二期会会員。



大尉：ヴォルフガング・シュミット

Hauptmann : Wolfgang Schmidt

ドイツ・ベルリン生まれ。『サロメ』ヘロデをはじめ、ワーグナー作品を主なレパートリーとして、ザクセン州立歌劇場を中心に、ウィーン国立歌劇場、ドレスデン州立歌劇場、バイロイト音楽祭などで活躍。レパートリーには『タンホイザー』タイトルロール、『ニーベルングの指環』ジークフリートとミーメ、『ヴォツェック』鼓手長、大尉、『ボリス・ゴドゥノフ』シューイスキー公、『モーゼとアロン』アロン、『ピーター・グライムズ』タイトルロールなどがある。近年はウィーン国立歌劇場『ラインの黄金』『ジークフリート』ミーメ、デュッセルドルフ歌劇場『サロメ』ヘロデや『エレクトラ』エギストなどに出演。また2008年には本プロダクションのバイエルン州立歌劇場における初演『ヴォツェック』に同役で出演、その後もミュンヘン・オペラフェスティバルを含め再演の度に出演している。13年はデュイスブルク歌劇場『サロメ』ヘロデに出演予定。新国立劇場には02年、08年『サロメ』ヘロデ、10年『ジークフリート』ミーメに出演している。

ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

医者：妻屋秀和

Doktor : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライブツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などを主なレパートリーとする。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演。最近では2011/2012シーズンの『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』ドン・バジリオに出演。『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの司祭長、『夜叉ヶ池』鉦蔵にも出演予定。2013/2014シーズンは『リゴレット』スパラフチーレ、『カルメン』スニガ、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵でも出演予定。藤原歌劇団団員。



マリー：エレナ・ツィトコーワ

Marie : Elena Zhidkova



ロシア出身。ゲッツ・フリードリヒに見出されベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となり、以来ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ラインの黄金』フリッカ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『青ひげ公の城』ユディットなどを歌っている。13年はマンハイム州立歌劇場『パルジファル』クンドリー（3月）、デュッセルドルフ歌劇場『タンホイザー』ヴェーヌスに出演予定。新国立劇場には2003年『フィガロの結婚』ケルビーノで初登場後、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエ ガラ公演などに出演、豊かな声量と美しい舞台姿で多くのファンを獲得している。2012/2013シーズンは1月の『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』ヴェーヌスに出演。